専修国際人 #8

Globali 専 tion 専修国際人

国際的に活躍する専修人を紹介する「Globali専tion（グローバリ“専”ション）」。今回は在スペイン日本国大使館に勤務する池田寛子さん（平25文）に登場いただく。

在スペイン日本大使館専門調査員

池田 寛子さん（平25文）

HIROKO　IKEDA

現地で感じた外国語の魅力

――スペイン語を学んだきっかけは。

大学で必修の第二外国語として選んだのがスペイン語でした。先輩から簡単だと聞いたから、という単純な理由です。特別、スペインに興味があったわけではありませんが、１年次の時にバルセロナでの春期留学プログラムに参加しました。カタコトでしたがコミュニケーションの楽しさを知り、スペイン語は結局４年次まで履修し続けました。

――どのような楽しさを感じましたか。

高校までは英語に苦手意識があり、実生活で使う経験はありませんでした。一方、スペインに行ったことで、学んだことを生かすことができる、もっと話したいと思いました。そのとき初めて外国語の魅力に気づいたのです。また、専大に来ている留学生と交流するうちに日本語教育にも興味を持ちました。

――卒業後のキャリアは多彩ですね。

日本語教育を学ぶ傍ら外務省契約職員を経て、メキシコの自動車関連日系企業で働き、週末は大学で日本語を教えました。本格的に日本語教師としてやっていきたいと思い、国際交流基金の若手日本語教員派遣事業で米国・カリフォルニア州の公立高校に勤務し、日本語、スペイン語、英語で生徒たちと接しました。しかし、この時期にコロナ禍となり自身も大病を経験したことから「やりたいことは全部やろう」と決め、スペインの大学院に進学しました。外国語習得理論や教授法について研究を行い、2023年から大使館で広報文化担当の専門調査員として勤務しています。

――ワールドワイドに働くコツは何でしょう。

本来はちゃんと語学ができた上で、ふさわしい仕事に就くのがいいのでしょうが、私の場合は走りながら武器を拾っていくというか。武器というのも、人とのコミュニケーションが一番大きいですね。拙いながらも、周りの人と一緒に働いたり学んだりする中で、なんとか自分を成長させてきました。キャリアを振り返ってみても、自分一人ではできることは少なかったと思っています。メキシコでも米国でも、助けてくれる人が必ずいました。そして、考え方や文化の違いに直面した時にも、状況に応じて柔軟に考えられるようになりました。

――現在、大使館ではどのようなお仕事を。

スペイン国内でのＳＮＳを含めた日本の報道の調査、文化イベントの企画やスペイン人学生の日本への送り出し支援などを行っています。両国間の関係を強化する仕事なので、やりがいを感じています。近年、スペインでも日本語教育が盛り上がっています。日本語教育の現場を視察することもありますが、ここから将来両国の懸け橋となる人材が生まれるかもしれないと、ワクワクしています。

専大生へのメッセージ

Al mal tiempo, buena cara.

「大変なときこそ笑顔でいよう」という意味です。昔、留学したときにスペイン語の授業で聞き、今でも頭に残っています。スペイン語圏の考え方を体現している言葉ともいえます。ニコニコしていると気持ちも明るくなるので、自分もいつも笑顔でいるよう心掛けています。今、コロナが落ち着いてもなかなか前に進めない学生さんもいるかもしれません。私がなんとなく取った第二外国語から世界が広がったように、今皆さんがやっていることから、特別な何かが見つかるかもしれません。

大学院公開講座ＰＡＲＴ２

アフターコロナの経済を展望

今日的な学問テーマについて、専門分野の講師が解説する「大学院公開講座」。文学研究科による「アフターコロナの成長の息吹」を統一テーマとした全４回の講座が開催された。

日本を含む世界各国の地域で何が起きているのか、地域の過去、現在を十分に把握し、将来を展望した。各回のテーマは▽鉄道と沿線の発展▽地域戦略▽インドの工業と農業▽地域交通。

第２回の11月17日は、石川県の馳浩知事（昭59文）と西垣淳子副知事を迎え、「石川県の成長戦略」と題して行われた。

県の成長戦略を語った馳知事（中央）と西垣副知事（右）

ＰＡＲＴ１に続き、11月から12月にかけて、ＰＡＲＴ２として経済学研究科による「アフターコロナの成長の息吹」を統一テーマとした全４回の講座が開催された。

日本を含む世界各国の地域で何が起きているのか、地域の過去、現在を十分に把握し、将来を展望した。各回のテーマは▽鉄道と沿線の発展▽地域戦略▽インドの工業と農業▽地域交通。

第２回の11月17日は、石川県の馳浩知事（昭59文）と西垣淳子副知事を迎え、「石川県の成長戦略」と題して行われた。

馳知事は「数十年後に想定される未来からバックキャスティング方式で今打つべき手を考えている」と述べ、重点テーマとして、デジタル行財政改革とカーボンニュートラルの推進を挙げた。西垣副知事は、デジタル戦略の一例として、隣接県との連携が進む石川県の観光データ分析プラットフォームを紹介した。

第４回（12月１日）は中村吉明教授が地域交通の課題と今後について講演した。ＭａａＳ（マース：Mobility as a Service）を「クルマよりも広義なモビリティを用いてユーザーに円滑な移動を提供すること」と定義。過疎地域では社会的必要性が高い一方で、課題として利便性と収益性の確保をあげた。

昨今話題のライドシェアにも触れ「ライドシェアを取り入れないと、日本の交通のサステナビリティ（持続可能性）の実現は難しい」とまとめた。

馳知事らの講演を熱心に聴く学生

国コミュ・宮本研究室主催

映画上映会 × 監督対談企画

「多様性の在り方」考える

対談する川野邉監督（左）と今井監督

セクシャリティ、身体、生活や文化といった「これからの多様性の在り方」をテーマにした国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科宮本文研究室主催のイベントが11月11日、神田キャンパスで開かれた。『ボクらのホームパーティー』（川野邉修一監督）、『ジンジャーミルク』（今井ミカ監督）の２本の映画上映と監督同士の対談を通して、多様性や異文化コミュニケーションについて考えた。

企画した宮本教授はアメリカ文学が専門で、授業で異文化や多様性について考える機会も多い。「両作品には、大学生が自分の性的アイデンティティの在り方に悩み、苦しむ姿が描かれている。セクシャリティ、言語マイノリティといった複眼的視点から、多様性を言葉だけでなく実感する機会にしてほしい」と話す。

今井監督は「ろう者として生まれ、第１言語は日本手話。日本語とは言語が違うので、コミュニケーションにズレが生じるなど、文化が違うことを伝えたかった」と制作意図を語った。川野邉監督は「ゲイと一くくりにされることが多いが、決してそうではない。一人一人キャラクターも生活も異なっている」と多様性について言及した。

兵庫県と就職支援協定

本学は12月14日、兵庫県と就職支援協定を結んだ。県内の企業情報の提供や合同企業説明会の開催など、兵庫県内企業への学生・卒業生のＵＪＩターン就職を支援する。

兵庫県庁で行われた締結式には本学の鈴木雅美常務理事と片山安孝副知事が出席。協定書を交わした。

協定書を交わす鈴木常務理事（右）と片山副知事

鈴木常務理事は「本学ではＵＪＩターン就職に力を入れるために、従来の『地域で働く』に加え、『地域で暮らすこと』に関する情報提供を拡充させている。この取り組みを実現していくためには、県の協力が必要。県の発展にも貢献できるような取り組みを今後進めていきたい」と述べ、片山副知事は「若者の流出を食い止めるために、東京の大学と連携して、学生・卒業生の企業選びの選択肢を増やしていきたい」と語った。

本学の就職支援協定締結自治体は38（37府県１市）となった。

就職だより

〈３年次生へ〉第３回就職ガイダンスを１月19日（金）にオンラインで実施します。採用選考が本格化する３月１日を約１カ月後に控えた時期において、いかなる準備を進めるべきか、実践を交えて解説する予定ですので、必ず参加してください。

〈４年次生へ〉４年次生を対象とした求人情報が引き続き多くの企業から届いています。これらの情報は、就職支援システム「Ｓ-ｎｅｔ」の「来校企業情報」に掲載していますので、就職活動を継続している人はぜひ活用してください。なお、個別相談でも求人情報の相談を受け付けていますので、積極的に活用してください。

また、進路決定者は「進路届」を就職支援システム「Ｓ-ｎｅｔ」もしくはキャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。「ｉｎ Ｃａｍｐｕｓ」から「就職アンケート」の回答にも協力をお願いします。

ハラスメントのないキャンパスへ

その言動は、適切ですか

新聞記事や報道されるニュースの中に、不適切な言動が招いていると思わざるを得ない事案・事件が多く散見されます。ＳＮＳによる誹謗中傷、教員による児童・生徒への性加害、信仰の自由に関する問題等、重大な人権侵害だといえるでしょう。

ハラスメント（harassment）とは嫌がらせのことをいい、人の嫌がることを言ったりしたりすることです。

親しい間柄であっても、いわゆる上下関係とされるような、教員と学生、先輩と後輩、上司と部下、親と子であっても、すべての人は人として対等であり水平の関係です。互いを尊重し、また尊重されることは、人としての義務であり権利です。指導、教育、コミュニケーションを正しく理解していれば、そこにハラスメントは起こらないのではないでしょうか。

本学においても佐々木重人学長による「ハラスメント防止宣言」がなされています。すべての学生、教職員等が個人として尊重され、快適に学修、教育、労働及び研究する環境を作り、これを保持していくことが何よりも重要であり、構成員の個人としての尊厳を損ね、快適な環境を侵害するキャンパス・ハラスメントは、あってはならない行為だと明言しています。

自分の言動が他者の人生を大きく左右することがあるのだということを常に意識し、悲しい事件や事故を招かないよう、その言動が適切であるかを振り返ってみてください。

（キャンパス・ハラスメント対策室員　古谷野栄一）

キャンパス・ハラスメント対策室　TEL：044-900-7858　E-mail：camhara@acc.senshu-u.ac.jp